

2023年6月 千葉公園「自然観察会のお知らせ」

日時：2023年6月18日（日）10時00分～12時00分（120分）

会場：千葉公園 〒260-0045 千葉市中央区弁天 3-1

集合：蓮華亭（受付9:45～）

内容：今月のテーマ：植物と昆虫の関係

①オオガハス（はす科）古代ハスがよみがえる

2000年の眠りから目覚めたハスの花と葉の上の水玉を観察

②ネズミモチ（もくせい科） トウネズミモチとの違いは？

ネズミモチの花が良い香りを放って昆虫が集まっていますよ

③クチナシ（あかね科）実は染料や栗きんとんの色付けに利用

とっても良い香りが漂います。この葉を食べる幼虫を探そう！

④ヤマモモ（やまもも科） 赤い実を食べてみましょう！

見るからに美味しそうな赤い実です。雌雄異株って何ですか？

⑤ツバメ（つばめ科）夏の渡り鳥だよ JR千葉駅地下、現在営巢中！

綿打池の上空を飛んでいるツバメですが何を食べているのか観察しましょう！

⑥テントウムシ（てんとうむし科） 幼虫・蛹・成虫を探そう！

アブラムシを食べてくれる益虫はナナホシテントウとナミテントウだよ。

持ち物：自然観察ができる服装と靴・タオル・飲み物・おやつ・図鑑（植物・昆虫・野鳥など）

カメラ・双眼鏡・敷物・帽子・雨具・筆記具・虫眼鏡・メジャー・捕虫網・虫ケース

お話し：亀井尊（ちばサイエンスの会・NACS-J自然観察指導員）

安全対策：1. ゆっくり千葉公園内を歩いて、自然に親しみます

2. マスク着用、距離を保ち、適度に水分補給をします

3. 植物採集、昆虫の採集はできません

4. 植物のトゲ、昆虫の毒に注意しましょう

時間配分 9:45 受付開始

10:00～10:10 蓮華亭にて挨拶・資料配布・今月の自然解説・諸注意 【シオカラトンボ】

10:10～11:40 コース

綿打池を時計回りで移動し展望台、市民プール近くまで行きます。

①オオガハス祭り（17日から） ②植物と昆虫の関わり

③雌雄異株・風媒花ってなあに？ ④テントウムシの幼虫・蛹・成虫探し

11:40～12:00 工作・今日の観察会を振り返って 来月の予定 7月8日（土）10:00～12:00

《観察のポイント》

1. ハスの花の構造は萼が4～5枚、花は20枚、オシベは何と200本とされています。そして花期はたったの4日間です。蓮根の穴と葉の中央が繋がっている所以水玉は自由に動きます。
2. ネズミモチの白い花が咲いて、良い香りが漂っています。蜜を求めて集まっている昆虫を調べてみましょう。ミツバチやマルハナバチ、クマバチなどが見られます。秋に黒い実ができます。
3. フクロウトイレの傍から良い香りがしています。クチナシの花の香りです。この葉を好んで食べる蛾の幼虫がオオスカシバと言います。成虫は花の蜜を求めてホバリングしています。
4. 普段はちっとも目立たない常緑のヤマモモですが、赤い実をつけているときは違いますね。この木はオスとメスの木があるので、花粉を飛ばし受粉して実がなる「雌雄異株」の植物です。
5. ツバメは害虫を食べ、軒先に巣をつくる縁起が良い渡り鳥と言われています。それはツバメの天敵であるカラスやヘビ、ネコから雛をまもるため人通りのある場所に巣を作るって本当？
6. 公園内の花壇の杭にテントウムシの蛹が見られます。どんなテントウムシなのか想像してみよう。益虫はキイロテントウやシロホシテントウ、害虫はオレンジ色のテントウムシダマシだ！

主催：NPO法人 ちばサイエンスの会 連絡先 080(3503)6059（亀井）

千葉公園の自然（花・草・鳥・昆虫など）に親しむ

《色とりどりの美しい草花を観察して花束に》

足元に咲く草花に目を向けて花の色や葉の形などを観察してみると、花びらの色違いや数の違いなどがあり、それぞれが個性的に生きていることが理解できます。時にチョウや虫が蜜を求めて飛んできます。小さな花ですが良い香りを放って存在感を示している草もあります。先月は身近な草花に視点を当てて名前を調べ、それらを一束にしてマスキングテープ



【3種類の草花を採集し帽子に飾る】

で巻いてコサージュづくりをしてみました。普段見慣れたニワゼキショウとユウゲショウ、そしてカタバミの草花ですが、初めて聞いた参加者も多くいました。「雑草」という言葉でくくってしまうのでは余りにも可哀そうです。それぞれの草花が一生懸命生き、昆虫に花粉や蜜を提供し、命の繋がり（生態系を保っているのです。世の中には無駄な生きものは存在せず、必ず何かの役に立っているのです。

梅雨に入ると草木は緑を徐々に増して勢いづき、たくさんの種類の昆虫の出番がやってきます。

1. オオガハス「はす科」

2000年の時を経て咲くオオガハスは千葉市の花として市民に親しまれています。開花時は早朝から競輪場の駐車場が開放され多くの人々で賑わいます。駐車場からプールの脇を通り、公園に入るとアジサイが土手に見られ、ボタン園を過ぎると蓮華亭のハスの建物が現れてきます。



不思議1. どうしてハスの葉の水玉が動くの？

葉の全面に短い毛が密生していて、これが水をはじきます。また蓮根の穴と葉の真ん中が繋がっているの、空気が絶えず出て水玉が動きます。「象鼻杯」は葉の上に酒を注ぎ、茎の元から飲みます。花が終わると穴の開いたジョウゴが出現します。

ハスの花の構造：萼：4～5枚 花：約20枚 オシベ：400本 花の寿命：4日

2. ネズミモチ（もくせい科）

これもまた不思議な名前の樹木です。先月は「カナメモチ」の赤い葉を観察しました。扇子の要にこの枝を利用したので「カナメ」、そしてモチの葉に似ているので「カナメモチ」と名付けられました。さて、今度のネズミモチはどのような由来があるのかな？

秋になると紫黒色に熟した実がネズミの糞を連想させ、樹木全体がモチノキに似ているからだそうです。トウネズミモチは中国産で唐ネズミモチ、葉脈が見えるので透ネズミモチと覚えてもいいですね。

紫黒色の実を日干しにした果実を「女貞子」といい、漢方薬として疲労回復、解熱剤として利用されます



3. クチナシ（あかね科）

【甘い香りが漂う花】

【光沢のある葉】

【トウネズミモチ】

フクロウトイレの側から何とも良い香りがしてきます。香りに惹かれて近づいていくとクチナシの白い花にたどり着きます。トイレの側なのでおい消しに植えられたのかしらと考えてしまいますね。でも、植物が放つ良い香りは人間ばかりでなく昆虫にとっても実に魅力的なのです。この葉を食べる昆虫がオオスカシバという蛾の幼虫です。きっと美味しいのでしょうね。



【クチナシの光沢のある葉と巻き上がった蕾】 【6枚の花弁】 【オオスカシバの成虫】

4. ヤマモモ (やまもも科) 雌雄異株の植物はイチョウ・サンショウ・キウイフルーツなどヤマモモの木もフクロウトイレの側に植栽されています。足元には赤い実が落ちているので、どこから落ちてきたのかを探せばヤマモモの樹木を見つけることができます。木についている実をとって水で洗って食べてみましょう。どんな味がしますか？ きっと美味しいことでしょう。徳島県の県木で、八百屋さんなどでヤマモモの実が販売されています。さて、ヤマモモの木は雌雄異株 (しゅういしゅ) と言って、オスの木とメスの木があり、風によって花粉が運ばれ受粉して実をつけます。それではオスの木はどこにあるのか探してみましょう。



【雄花の木から花粉が風により飛び、雌花に受粉して赤い実が形成されます】 【灰色した樹皮】

5. ツバメ (つばめ科) 全長：17 cm 翼開長：32 cm

綿打池の上空を飛んでいたかと思うと急降下していく燕尾服の鳥がツバメです。東南アジアから渡ってくる夏鳥で、人家や商店、駅などに泥でできたお椀型に巣を作ります。春から夏に繁殖して、子育てする姿を間近で見ることができます。トンボやアブ、ユスリカなどの飛ぶ虫を、飛びながら捕らえます。鳴き声は「チュッピ」、さえずりは「土食って虫食ってしぼーい」と聞こえてきます。そして、8月中旬から10月にかけて東南アジアへ渡っていきます。

《消えゆくツバメ》 2023年、地元のレンガ工場が解体により飛来せず近年はツバメが減少しています。古くから里山の自然の中で生きてきた人と自然との共存を象徴する野鳥でした。ツバメが姿を消すということは、日本の原風景が消えてしまうということ。つまり水田が減少すれば巣を作る土を確保できないこととなります。ツバメの生息環境を整える必要がありますね。



6. テントウムシ (てんとうむし科) テントウムシ (天道虫) は幸せを運んでくる虫なんだよ！ いろいろな柄のテントウムシがいますね。ナナホシテントウ以外は、ナミテントウがほとんどです。これらは益虫ですが、ナスやトマトなどの野菜を食べてしまうニジュウヤホシテントウなどもあります。これは害虫になります。また、細菌を食べるムーアシロホシテントウもいます。ナナホシテントウムシの絵を描いてもらいました。すると子どもたちがちょっと迷っています。どうしたのかと聞いてみると、テントウムシの色調が、赤地に黒だったか、黒字に赤だったかはっきりと思い出せないというのです。

日本には180種類のテントウムシがいて、そのうちのナミテントウは200以上の違った模様があります。そして北に行くほど赤地の模様が、南に行くほど黒地の模様が多いといえます。幸運をもたらす天からの使者です。



【ナミテントウの幼虫・蛹・産卵する成虫】

テントウムシを触って刺激をすると、黄色い汁が手に着きます。危険が迫った時に脚の関節から出る液体ですが、とても苦くて、食べようとした鳥などの動物は吐き出してしまいます。目立つ色をしていても「まずくて食べられない」と相手に覚えさせる。これを「警戒色」といいます。

《 6 月 》 千葉公園の自然風景（花・草・鳥・昆虫など）

【①】 オオガハス



①オオガハスの花が咲き出しました。2000年の時を超えての開花は実に感動的です。

【②】 ネズミモチとクマバチ



②ネズミモチの花に背中が黄色で羽が黒いクマバチが蜜を求めてやって来ました。

【③】 クチナシ



③クチナシのとっても良い香りが漂ってきます。この葉を食べる蛾の幼虫を探してみましよう。

【④】 ヤマモモ



④赤い大きな実はヤマモモです。徳島県の県木で八百屋さんで販売しています。美味しいよ！

【⑤】 ツバメ



⑤ この時期に東南アジアから渡ってくるツバメです。低く飛ぶときは天候が下り坂って本当？

【⑥】 テントウムシ



⑥赤地に黒丸が7つあればナナホシテントウです。10個あれば「トホシテントウ」だよ

